

【西都市】 一人一台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって目指す学びの姿

西都市では、1人1台端末をはじめとするICT環境の整備を通じて、以下のような学びの姿を目指す。

- ◎個別最適な学びの実現：1人1台端末の導入により、児童生徒一人ひとりの学習進度や理解度に合わせた個別最適な学びを実現することを目指す。
- ◎協働的な学びの充実：1人1台端末を活用することで、児童生徒同士の学び合いや共同作業がより活発になり、協働的な学びが促進するよう活用する。
- ◎主体的・対話的で深い学びの実現：ICTツールを効果的に活用することで、児童生徒の主体性を引き出し、対話を通じて理解を深める学習活動が可能になる。
- ◎学びの可能性の拡大：様々な理由により学校で学習活動を行うことが難しい児童生徒に対し、1人1台端末を活用した支援や指導を行うことで、誰一人取り残さない教育の実現を目指す。
- ◎日常的なICT活用の定着：授業や家庭学習において、1人1台端末を日常的に活用することで、デジタルリテラシーの向上と主体的な資質・能力の育成を図る。

これらの目標を達成するために、西都市でも教職員のICT活用能力の向上や、効果的な指導方法の開発に取り組む。

2. GIGA第1期（～令和6年度まで）の総括

宮崎県西都市のGIGA第1期（～令和6年度まで）の総括について以下のとおり。

- ◎端末整備：令和元年度にリースにて601台、令和2年に購入で1812台導入し整備を行い、1人1台端末の効果的な利活用に向けた実践が図られた。
- ◎教員研修の実施：授業や校務におけるICT活用に関する専門部会等を実施し、県や外部機関が実施する研修会にも教員が積極的に参加した。
- ◎個別最適な学びと協働的な学びの推進：1人1台端末を活用し、児童生徒の「自分で調べる場面」「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士で意見を共有する場面」などが増えた。
- ◎課題の把握：端末の更新やネットワーク環境の維持、教員のICTリテラシー向上など、今後取り組むべき課題が明確になった。

これらの取り組みを通じて、西都市でも GIGA スクール構想第 1 期の目標達成に向けて、ICT を活用した教育の基盤が整備された。

3. 1人1台端末の利活用方策

西都市における 1 人 1 台端末の利活用方策について、以下のような取り組みを行う。

- ◎個別最適な学びの実現：児童生徒が自分のペースで学習できるよう、デジタル教材や学習アプリを活用し、理解度や学習進度に応じた個別指導を行う。自分で調べ、考え、発表する場面を増やし、主体的な学びを促進する。
- ◎協働的な学びの推進：端末を通じて学び合いや共同作業が可能となり、児童生徒間のコミュニケーションを活性化させる。クラウドツールを活用して、教員と生徒、生徒同士がリアルタイムで情報共有できる環境を整備する。
- ◎教員の ICT スキル向上：教員向け研修を定期的実施し、ICT 活用能力を高める。校内での情報共有や外部機関との連携を通じて、効果的な端末活用事例を共有する。
- ◎多様な学び方への活用：障がいのある児童生徒や、様々な理由により学校で学習活動を行うことが難しい児童生徒に対して、デジタル教材や入出力支援装置を導入し、学習機会を保障したり、オンライン授業や個別相談を通じて、多様なニーズに対応する教育環境を提供したりする。
- ◎家庭学習での活用：端末の持ち帰り利用を推進し、自宅でも学習が継続できるようにする。学校と家庭が連携し、保護者にも ICT 教育の意義を理解してもらう取り組みを行う。
- ◎ICT 環境の整備と維持：体育館も含めた校内無線 LAN（アクセスポイント）や電子黒板などの通信機器を整備し、校内どこにいても高速かつ安定したネットワーク環境が整備されることを理想とする。また定期的な端末のアップデートやネットワークアセスメントにより、ICT 環境の維持・向上を図る。

これらの方策により、西都市では「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指している。